

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	(仮称)呉服町マンション	階数	地上11F		
建設地	熊本市中央区呉服町3丁目60,62番、	構造	RC造		
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	80 人		
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2014年3月9日		
敷地面積	597 m ²	作成者	本村 千行		
建築面積	300 m ²	確認日	2014年3月9日		
延床面積	2,738 m ²	確認者	田井 啓文		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

★★★★★

100

50

0

0

50

100

3.0

1.5

BEE=1.0

S

A

B⁺

B⁻

C

44

42

1.0

環境品質 Q

環境負荷 L

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

BEE = 1.0

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆☆
80%超100%以下	☆☆☆
100%超	☆☆

排出率

93%

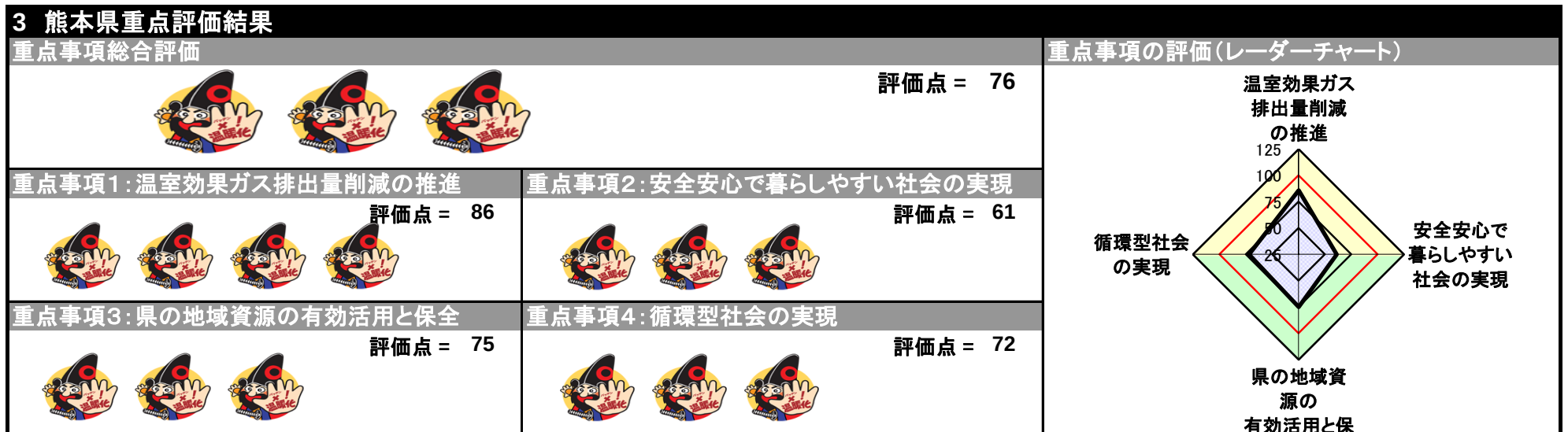
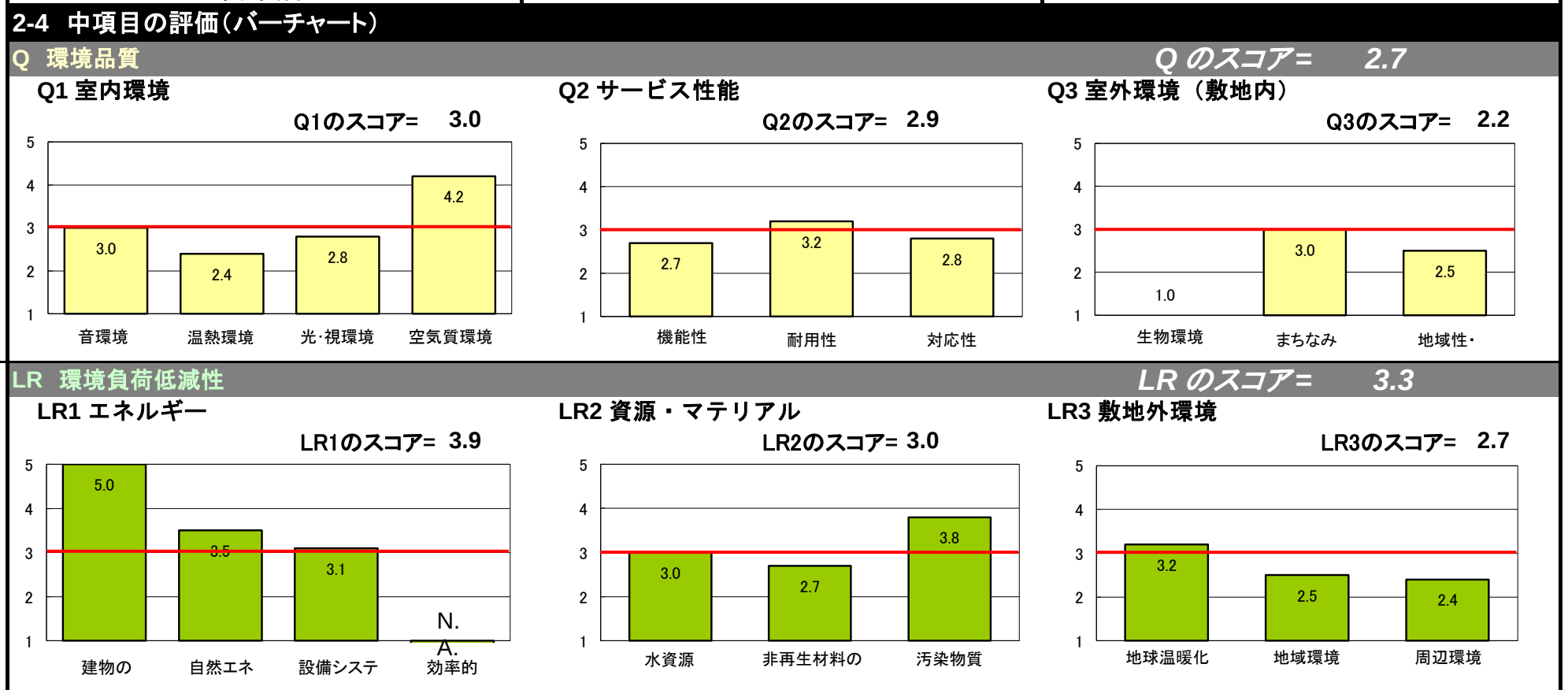
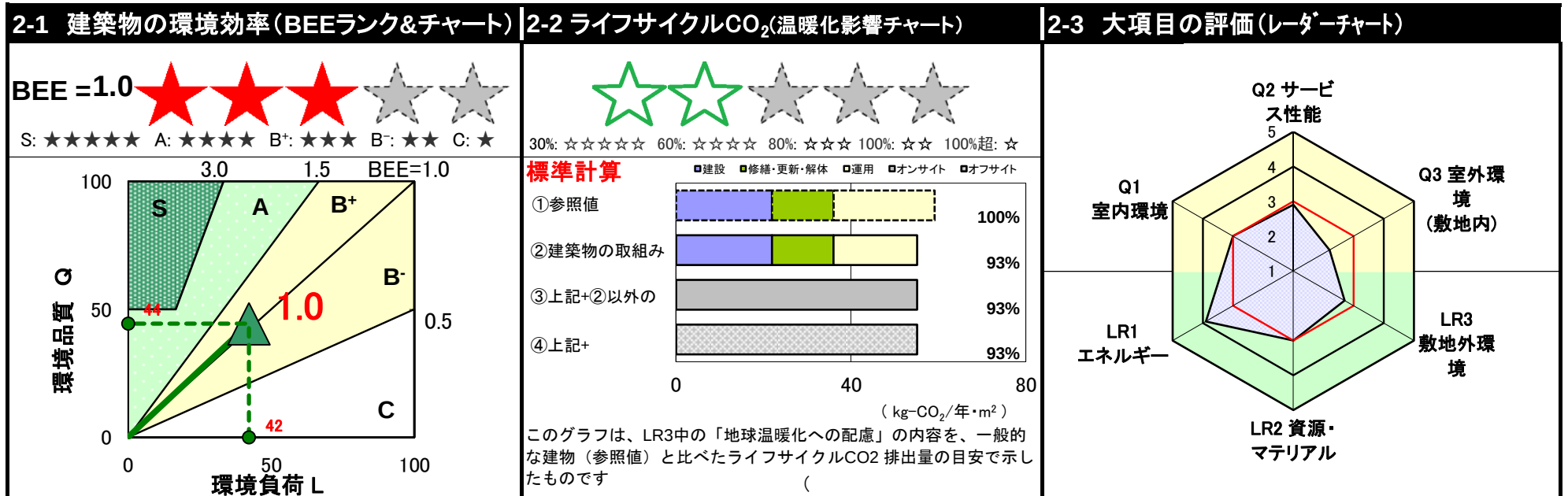
2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価			評価点
			76
	評価点	■熊本県重点評価基準	
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	85.7	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	61.2	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現	72.0	60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。			

CASBEE® 熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2010年版 ■使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)呉服町マンション	階数	地上11F
建設地	熊本市中央区呉服町3丁目60,62番、	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	80 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅、	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年2月 予定	評価の実施日	2014年3月9日
敷地面積	597 m ²	作成者	本村 千行
建築面積	300 m ²	確認日	2014年3月9日
延床面積	2,738 m ²	確認者	田井 啓文



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
(仮称)呉服町マンション

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル・CASBEE-新築(簡易版)2010年版
■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
					評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.7	
Q1 室内環境						0.40			3.0	
1 音環境					3.0	0.15	3.0	1.00	3.0	
1.1 騒音					3.0	0.50	3.0	0.50		
1		室内騒音レベル			3.0	1.00	3.0	0.50		
2		設備騒音対策			-	-	3.0	0.50		
1.2 遮音					3.0	0.50	3.0	0.50		
1		開口部遮音性能			3.0	1.00	3.0	0.30		
2		界壁遮音性能			3.0	-	3.0	0.30		
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20		
4		界床遮音性能(重量衝撃源)			3.0	-	3.0	0.20		
1.3 吸音					3.0	-	3.0	-		
2 温熱環境					2.4	0.35	2.4	1.00	2.4	
2.1 室温制御					3.0	0.71	3.0	0.50		
1		室温			3.0	0.63	-	-		
2		負荷変動・追従制御性			-	-	-	-		
3		外皮性能			3.0	0.38	3.0	1.00		
4		ゾーン別制御性			3.0	-	-	-		
5		温度・湿度制御			-	-	-	-		
6		個別制御			-	-	-	-		
7		時間外空調に対する配慮			-	-	-	-		
8		監視システム			-	-	-	-		
2.2 湿度制御					1.0	0.29	3.0	0.20		
2.3 空調方式					-	-	1.0	0.30		
3 光・視環境					2.1	0.25	2.9	1.00		2.8
3.1 昼光利用					2.8	0.30	4.4	0.30		
1		昼光率			2.0	0.60	5.0	0.50		
2		方位別開口			-	-	3.0	0.30		
3		昼光利用設備			4.0	0.40	5.0	0.20		
3.2 グレア対策					2.0	0.30	3.0	0.30		
1		照明器具のグレア			-	-	-	-		
2		昼光制御			2.0	1.00	3.0	1.00		
3		映り込み対策			-	-	-	-		
3.3 照度					3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御					1.0	0.25	1.0	0.25		
4 空気質環境					4.2	0.25	4.2	1.00	4.2	
4.1 発生源対策					5.0	0.60	5.0	0.63		
1		化学汚染物質			5.0	1.00	5.0	1.00		
2		アスベスト対策			-	-	-	-		
3		ダニ・カビ等			-	-	-	-		
4		レジオネラ対策			-	-	-	-		
4.2 換気					3.0	0.40	3.0	0.38		
1		換気量			3.0	0.50	3.0	0.33		
2		自然換気性能			3.0	-	3.0	0.33		
3		取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33		
4		給気計画			-	-	-	-		
4.3 運用管理					-	-	-	-		
1		CO ₂ の監視			3.0	-	-	-		
2		喫煙の制御			3.0	-	-	-		
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	2.9	
1 機能性					3.6	0.40	2.6	1.00	2.7	
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	2.0	0.60		
1		広さ・収納性			3.0	-	3.0	-		
2		高度情報通信設備対応			3.0	-	2.0	1.00		
3		バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性					4.0	0.30	3.5	0.40		
1		広さ感・景観			3.0	-	4.0	0.50		
2		リフレッシュスペース			3.0	-	-	-		
3		内装計画			4.0	1.00	3.0	0.50		
1.3 維持管理					4.0	0.30	-	-		
1		維持管理に配慮した設計			4.0	0.50	-	-		
2		維持管理用機能の確保			4.0	0.50	-	-		
3		衛生管理業務			-	-	-	-		
2 耐用性・信頼性					3.2	0.31	-	-	3.2	
2.1 耐震・免震					3.0	0.48	-	-		
1		耐震性			3.0	0.80	-	-		
2		免震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.33	-	-		
1		躯体材料の耐用年数			3.0	0.23	-	-		
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔			5.0	0.23	-	-		
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.09	-	-		
4		空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-	-		
5		空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.15	-	-		
6		主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-	-		

2.3 適切な更新				-	-			
	2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	
	1	空調・換気設備		5.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
	3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性				3.2	0.29	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			-	-	2.6	0.50		
1	階高のゆとり		3.0	-	3.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ		3.0	-	2.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性			3.2	1.00	-	-		
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-		
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-		
4	通信配線の更新性		5.0	0.11	-	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出				1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.9
1 建物の熱負荷抑制				5.0	0.40	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.5	0.20	-	-	3.5
2.1	自然エネルギーの直接利用			4.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				3.1	0.40	-	-	3.1
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		#VALUE!		5.0		-		
集合住宅の評価				3.1		-		
4 効率的運用				-	-	-	-	-
4.1	モニタリング			3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護				3.0	0.15	-	-	3.0
1.1	節水			3.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.63	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み			4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.8	0.22	-	-	3.8
3.1	有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	
1	消火剤			4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.33	-	-	
3	冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮				3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮				2.5	0.33	-	-	2.5
2.1	大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.4	0.33	-	-	2.4
3.1	騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音			3.0	1.00	-	-	
2	振動			-	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	
3.2	風害・砂塵・日照阻害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1	風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

環境・健康に配慮した住まいの計画
長期的な環境負荷の低減

Q1 室内環境

高い断熱性能の確保

Q2 サービス性能

将来における可変性の向上

Q3 室外環境（敷地内）

まちなみ・景観への配慮

LR1 エネルギー

集合住宅における使用エネルギー量の削減

LR2 資源・マテリアル

低環境負荷材料の採用

LR3 敷地外環境

浸透性舗装の採用等による温熱環境悪化の改善

その他

注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 (仮称)呉服町マンション

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		75.9
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				85.7	0.40	34.28
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.15			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	4.0	0.00			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.00			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	5.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.5	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.1	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				72	0.20	14.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数